

馬獣医療実態調査

【報告書】

2019年02月08日

調査概要	P3
Executive Summary	P5

◆調査結果詳細【GT表】

飼育馬施設の住所地／回答者区分	P7
飼育管理者の性別・年代	P8
飼育馬の種類	P9
飼育場の品種	P10
過去1年間の用途／飼育場の種類	P11

◆調査結果詳細【クロス表】

飼育馬の導入元	P13
飼育馬の年齢把握	P14
飼育馬の伝染性疾病等の予防情報等の把握方法	P15
衛生管理区域の設定方法	P16
衛生管理区域に病原体を持ち込まないための実施策	P17
野生動物による病原体侵入防止実施対策	P18
馬の異常の把握方法	P19
衛生対策の相談者	P20
飼育馬の状態異常に気づくとき	P21
異常症状、疾病罹患に気づくとき	P22
飼育馬の疾病罹患時の対処法	P23
馬の疾病等予防対策の相談者	P24
馬の疾病予防実施対策	P25
馬インフルエンザワクチン予防接種について	P26
馬鼻肺炎ワクチン接種（流産予防）の検討度	P27
講習会等で希望する予防管理情報	P28
馬の飼養管理に必要な診断方法と予防対策等	P29

I .調査概要

調査概要

調査目的	<p>我が国の馬は、多様な形態で飼育されている。</p> <p>しかし、馬インフルエンザ等の伝染病は、馬の種類に関係なく共通して感染することから、本会では馬感染症の予防対策の一環として、「馬インフルエンザワクチン接種費の一部助成」「馬飼養衛生管理技術等の講習会の開催」や「馬の健康手帳の無償配布」を実施し、馬飼育者の飼養衛生管理の向上させたいと考えている。</p> <p>今回、これら予防対策をより効果的なものとするため、馬獣医療実態調査を実施する。</p>
調査手法	<p>郵送調査 (各都道府県、畜産団体等を通じて、対象者に協力依頼文書及びアンケートに協力を願い調査を行う)</p>
対象者条件	全国の馬飼育管理者
回収数	●馬飼育管理者：664サンプル
調査期間	2018年11月5日（月）～12月20日（木）
備考	※報告書スコア n=30未満は参考値として、グレーハッチング

II .Summary

Summary

● 予防情報は9割が把握し、衛生管理区域は8割が設定している。

- ➡ 飼育馬の伝染性疾病等の予防情報等の把握は、**91%が何らかの方法で把握**しており、「最寄りの家畜保健衛生所からの提供情報」が最も高く59%
- ➡ 衛生管理区域の設定は、**83%が何かしら区分**しており、設定方法は「建物で区別している」が最も高く63%
衛生管理区域に「敷き藁の日光消毒場を含める」は9%、「飼養倉庫を含める」は41%
また、不用意に立ち入らないよう「立て看板等を設置している」は38%に達する。

● 病原体を持ち込まない実施対策は「出入口での対策」が上位 病原体の侵入防止は「飲用水の対策」が高く、「診療獣医師」に相談している。

- ➡ 衛生管理区域に病原体を持ち込まないための対策は、「**手指を洗浄できる設備・器具を設置**」43%、**「靴を消毒できる踏込槽などの消毒設備を設置**」33%など出入口の対策が上位。
- ➡ 野生動物による病原体侵入防止の対策は、**「外部からの異物が混入のない飲用水を使用する」**75%が特に高い。
- ➡ 衛生管理区域等の**衛生対策、疾病等予防対策の相談**は「診療獣医師」が特に高く、それぞれ「衛生対策」は48%、「疾病等予防対策」は79%に達する。また、**疾病罹患時の対処法**も「すぐ診療獣医師に依頼する」が77%で高く、「**診療獣医師**」に対する**重要性が伺える**。

● 「馬インフルエンザワクチン予防接種」は「全頭に実施」が6割弱、対して、 「馬鼻肺炎ワクチン接種の検討」は1割程度にとどまる。

- ➡ 「馬インフルエンザワクチン予防接種」は、「**予防接種を全頭に実施している**」が58%（「接種をしていない」は28%）。
- ➡ 「馬鼻肺炎ワクチン接種（流産予防）」の検討は、「**繁殖牝馬の全頭に接種したい**」が13%にとどまる。
- ➡ 馬の飼養衛生管理に関する講習会等では、「**馬の飼養管理の情報として必要なこと**」が70%と**要望が特に高い**。

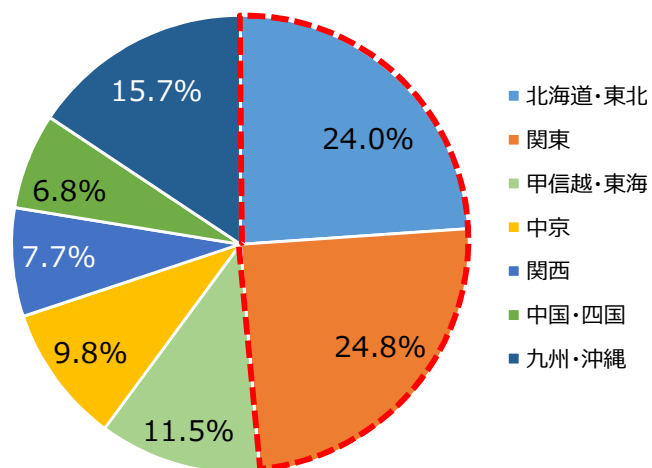
Ⅲ.属性

飼育馬施設の住所地／回答者区分

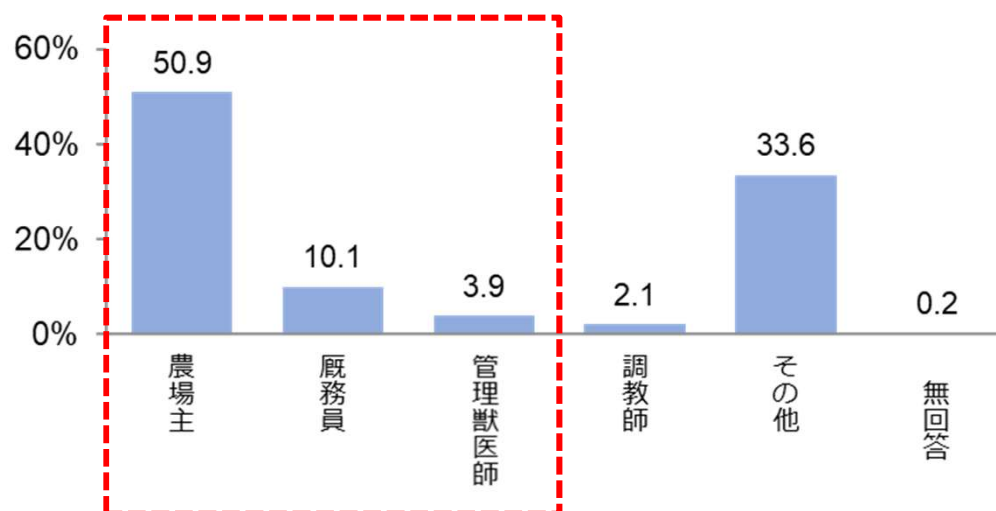
- 飼育場施設の住所地は「関東」24.8%、「北海道・東北」24.0%が多く、「関東」「北海道・東北」で半数を占める。
- 回答者区分は、「農場主」が最も多く50.9%、「厩務員」10.1%、「管理獣医師」3.9%が続く。

n=664 (単位：%)

Q1-1. 飼育馬施設の住所地を記入してください。(1つ選択)



Q1-2-2. 回答者をお教えてください。(複数回答可)

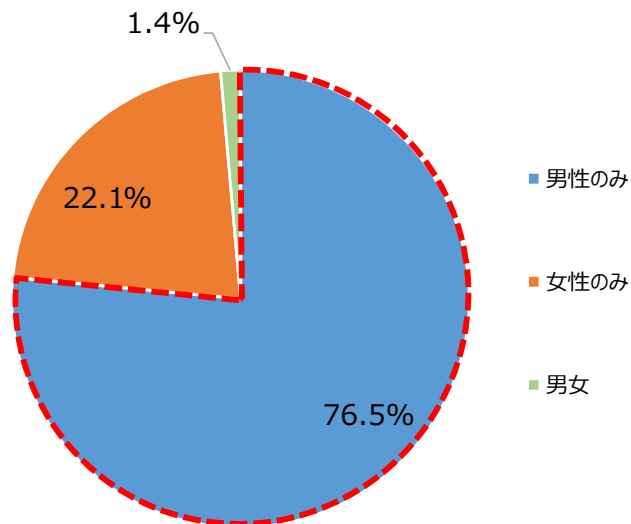


飼育管理者の性別・年代

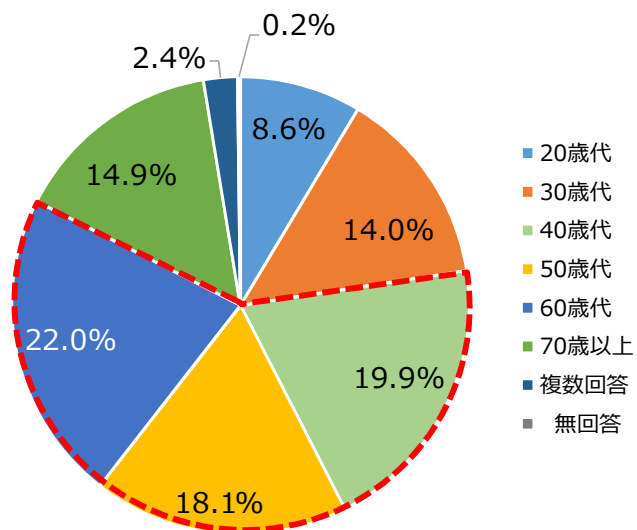
- 飼育管理者の性別は、「男性のみ」が76.5%で大半を占める。
- 飼育管理者の年齢は、「60歳代」が最も多く22.0%で、次いで「40歳代」が19.9%、「50歳代」18.1%と続く。

n=664 (単位：%)

Q1-2-3. 主な飼育管理者の性別をお教えてください。(1つ選択)



Q1-2-4. 主な飼育管理者の年齢をお教えてください。(1つ選択)

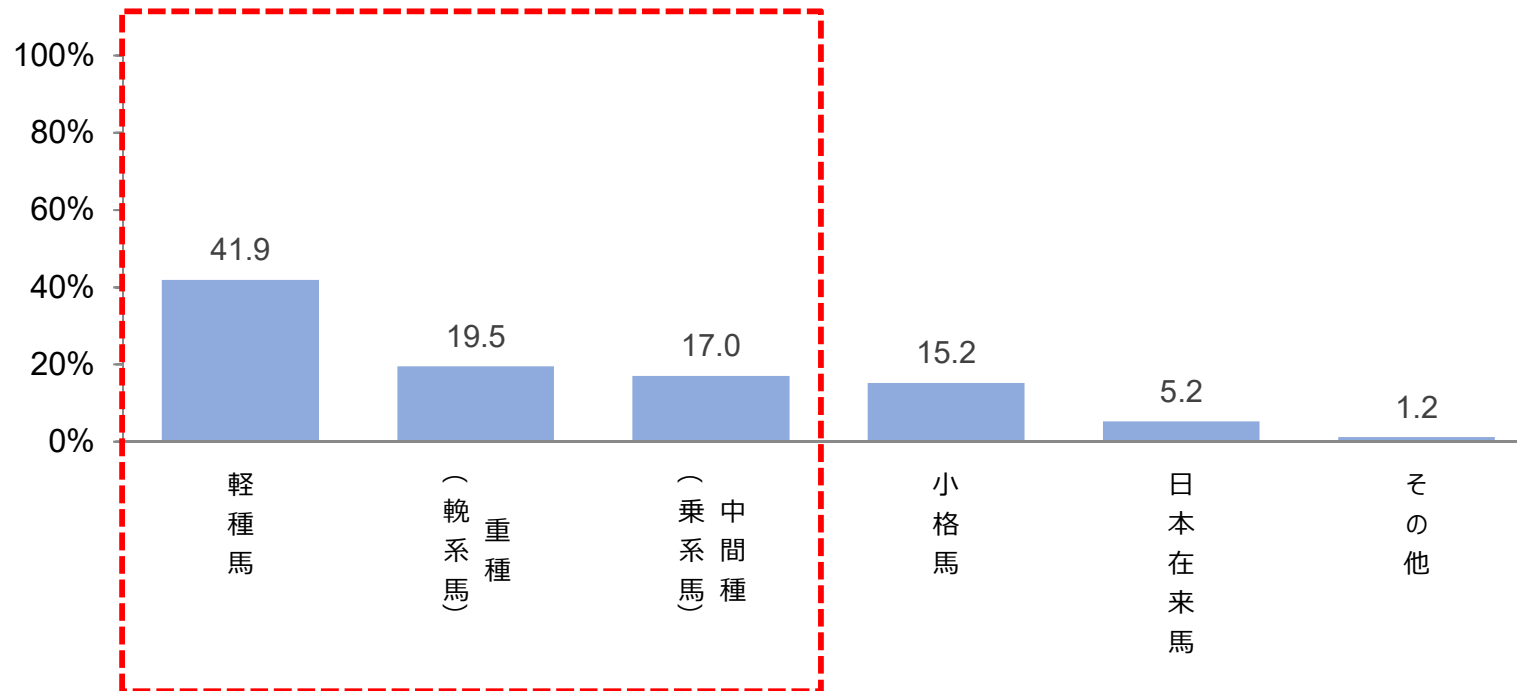


飼育馬の種類

➤ 飼育馬の種類は、「軽種馬」が最も多く41.9%。次いで「重種（輓系馬）」19.5%、「中間種（乗系馬）」17.0%が続く。

n=8,611（頭数ベース）（単位：%）

Q2-1. あなたの飼育馬の種類をお教えてください。（複数回答可）



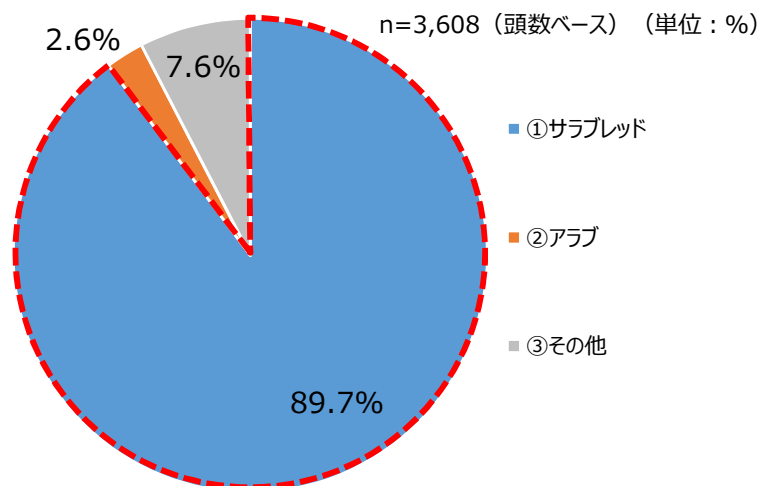
飼育場の品種

- 【軽種馬】は、「サラブレッド」が最も多く89.7%で大半を占める。
- 【重種（挽系馬）】は、「ペルシュロン」が最も多く72.9%、次いで「ブルトン」6.0%が続く。
- 【小格馬】は、「ポニー」が最も多く75.1%、次いで「ミニチュアホース」21.1%が続く。
- 【日本在来馬】は、「北海道和種」が最も多く50.1%、次いで「対州馬」11.1%、「木曾馬」10.6%が続く。

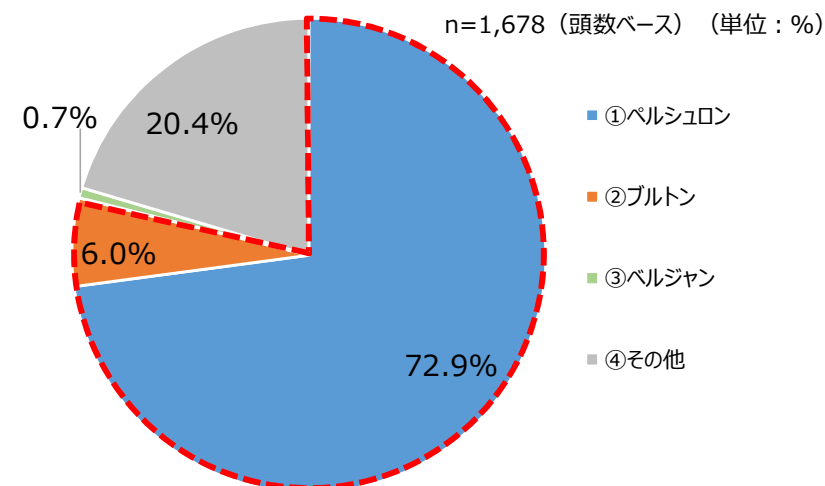
Q2-2. 過去1年間における飼育馬の用途をお教えてください。（複数回答可）

※複数品種カテゴリのみ掲載

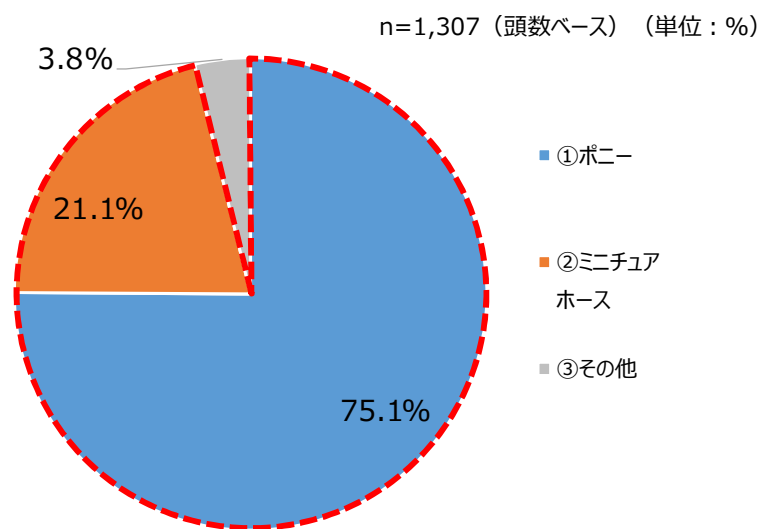
【軽種馬】



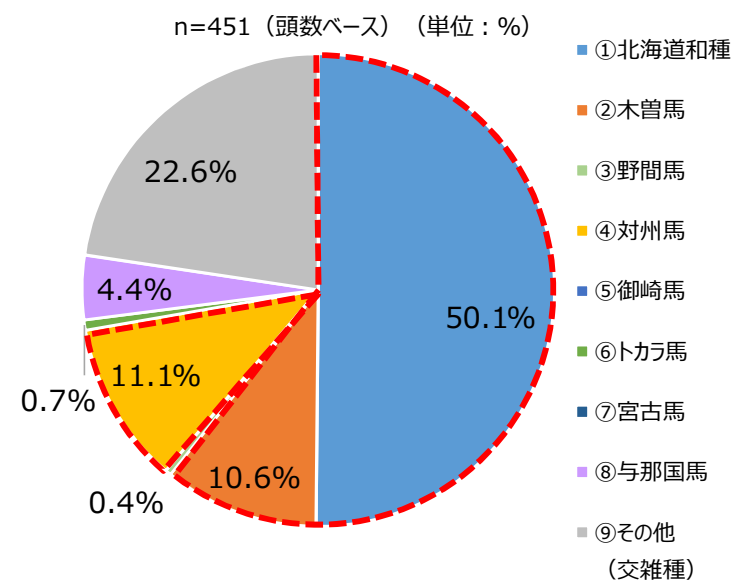
【重種（挽系馬）】



【小格馬】



【日本在来馬】

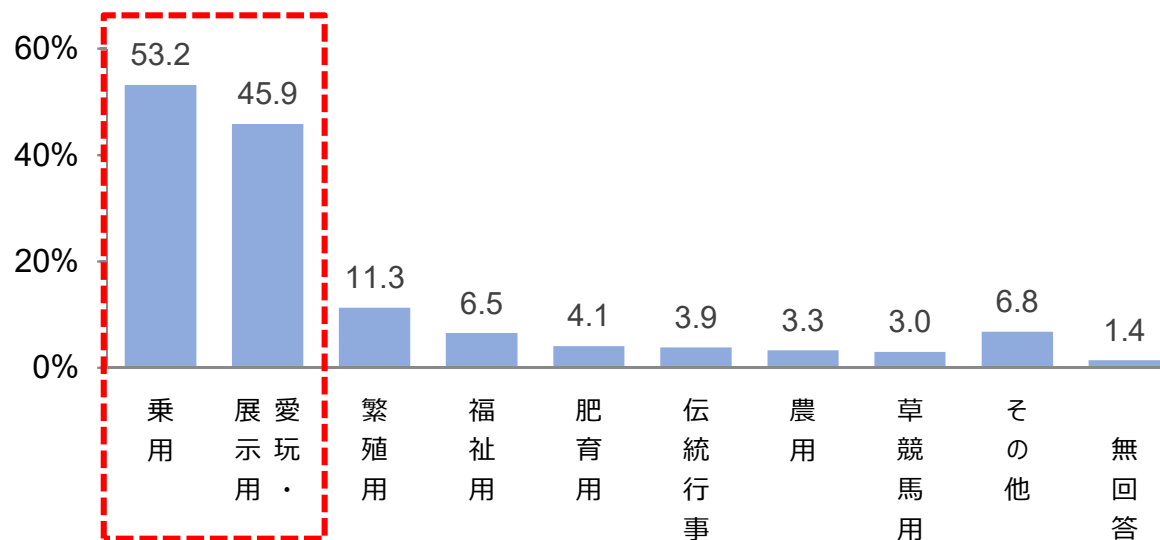


過去1年間の用途／飼育場の種類

- 過去1年間の飼育馬の用途は、「乗用」53.2%、「愛玩・展示用」45.9%が多く、他を大きく上回っている。
- 飼育馬の種類は、『愛玩・展示用』の「小格馬」82.0%が最も高く、次いで『乗用』の「軽種馬」67.7%、『福祉用』の「小格馬」67.4%、『乗用』の「中間種」55.2%が多く5割以上に達する。

n=664 (単位：%)

Q2-2. 過去1年間における飼育馬の用途をお教えてください。(複数回答可)



Q2-2-SQ. 用途別の種類

(単位：%)

	頭数	軽種馬	中間種	重種	小格馬	日本在来馬	その他種類	無回答
乗用	353	67.7	55.2	2.8	41.4	11.0	3.7	4.2
愛玩・展示用	305	6.9	4.3	3.6	82.0	11.1	6.6	1.6
草競馬用	20	10.0	5.0	20.0	60.0	-	-	10.0
福祉用	43	16.3	20.9	-	67.4	20.9	2.3	4.7
農用	22	9.1	13.6	50.0	9.1	9.1	-	9.1
肥育用	27	29.6	7.4	37.0	22.2	7.4	7.4	3.7
繁殖用	75	16.0	24.0	42.7	17.3	13.3	-	-
伝統行事	26	26.9	38.5	30.8	11.5	23.1	3.8	3.8
その他	45	20.0	15.6	17.8	17.8	4.4	33.3	2.2

※nが30未満の時は参考値

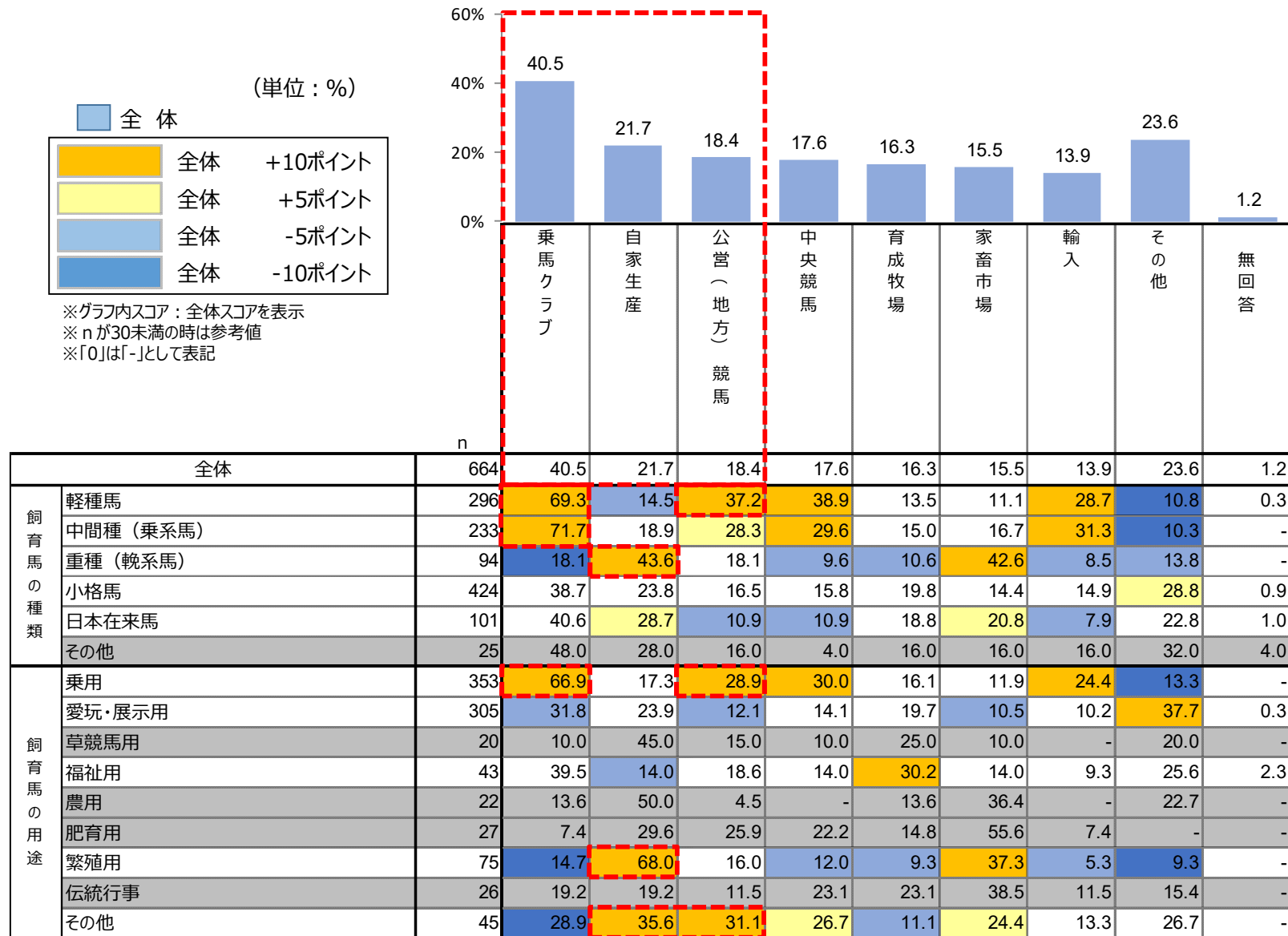
IV. 調査結果詳細

飼育馬の導入元

- 飼育馬の導入元は「乗馬クラブ」が最も多く40.5%。次いで「自家生産」21.7%、「公営（地方）競馬」18.4%が続く。
- 種類別で見ると、「乗馬クラブ」は『軽種馬』『中間種』、「自家生産」は『重種』、「公営競馬」は『軽種馬』が高く全体を10pt以上上回る。
- 用途別で見ると、「乗馬クラブ」は『乗用』、「自家生産」は『繁殖用』『その他』、「公営競馬」は『乗用』『その他』が高く全体を10pt以上上回る。

n=全体（単位：%）

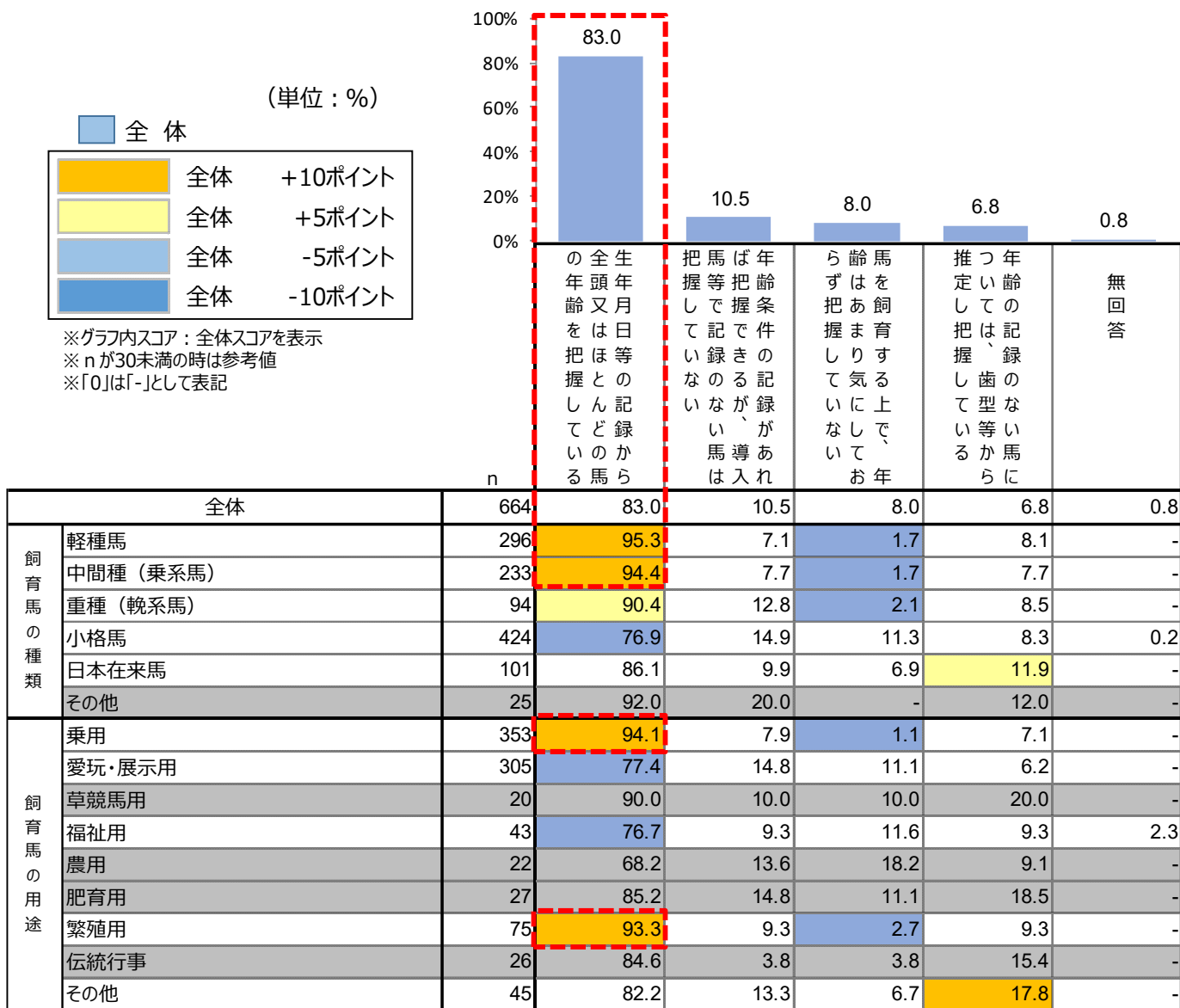
Q2-3. 飼育馬の導入元について該当する番号に○印を付してください。（複数回答可）



飼育馬の年齢把握

- 飼育馬の年齢把握は、「全頭又はほとんどの馬の年齢を把握している」83.0%が群を抜いて高い。
- 種類別・用途別でみると、「全頭又はほとんどの馬の年齢を把握している」は『軽種馬』『中間種』『乗用』『繁殖用』が高く、9割以上に達し全体を10pt以上上回る。

Q2-4. 飼育馬の年齢の把握について、該当するものに○を付してください。（複数回答可）



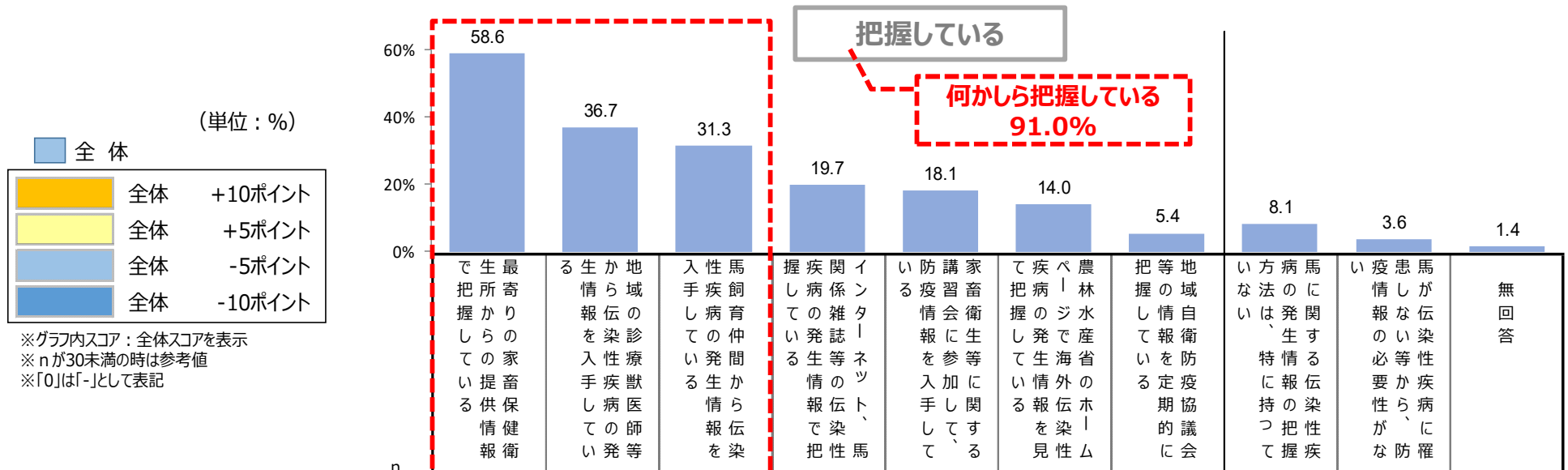
※ n=全体（単位：%）

飼育馬の伝染性疾病等の予防情報等の把握方法

- 飼育馬の伝染性疾病等の予防情報等の把握方法は、「最寄りの家畜保健衛生所からの提供情報」が最も多く58.6%、次いで「地域の診療獣医師等」36.7%、「馬飼育仲間」31.3%が続く。
- 種類別・用途別でみると、「最寄りの家畜保健衛生所からの提供情報」は『日本在来馬』、「地域の診療獣医師等」は『軽種馬』『中間種』『乗用』『繁殖用』、「馬飼育仲間」は『重種』が高く、全体より10pt以上上回る。

※ n=全体 (単位: %)

Q3-1. 馬を飼育する上で、特に馬インフルエンザ等伝染性疾病等の予防情報等について、どのように把握しているか該当する番号に○印を付けてください。(複数回答可)



※グラフ内スコア: 全体スコアを表示
※nが30未満の時は参考値
※「0」は「-」として表記

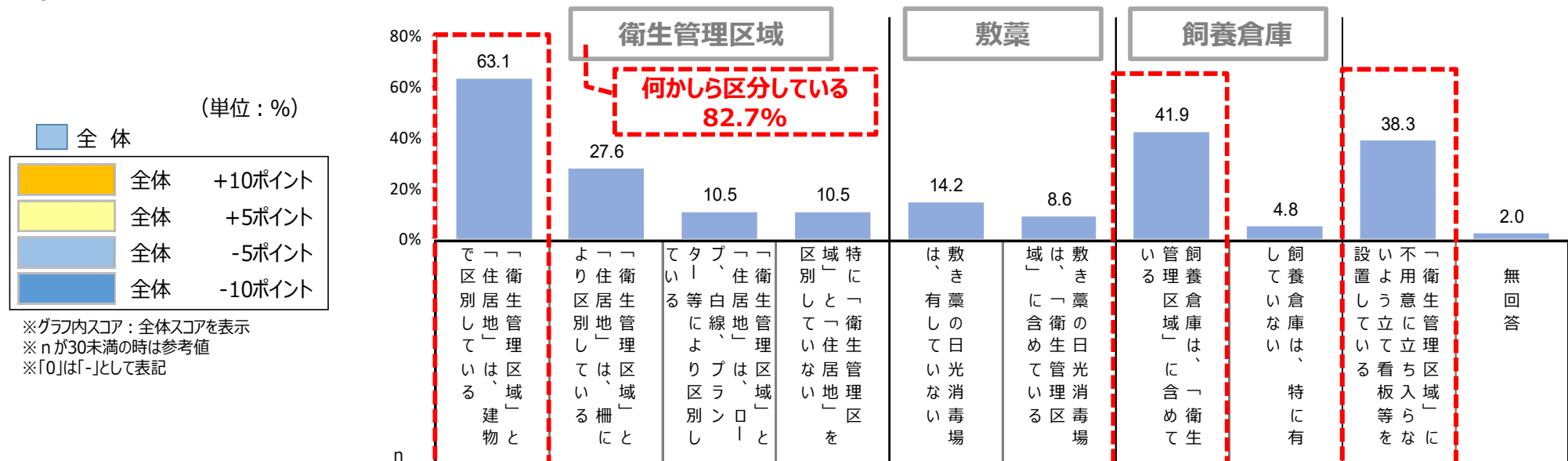
		n	58.6	36.7	31.3	19.7	18.1	14.0	5.4	8.1	3.6	1.4
全体		664	58.6	36.7	31.3	19.7	18.1	14.0	5.4	8.1	3.6	1.4
飼育馬の種類	軽種馬	296	57.1	51.4	40.9	28.7	22.0	14.5	7.1	2.7	1.4	1.0
	中間種(乗系馬)	233	58.8	51.1	39.9	32.2	22.7	14.6	6.0	3.4	0.4	0.9
	重種(挽系馬)	94	57.4	45.7	41.5	13.8	21.3	11.7	8.5	3.2	-	1.1
	小格馬	424	57.8	35.1	29.5	21.2	15.6	16.3	4.2	9.7	4.5	1.9
	日本在来馬	101	69.3	38.6	31.7	14.9	18.8	15.8	3.0	7.9	5.9	1.0
その他		25	72.0	40.0	40.0	24.0	40.0	20.0	-	-	-	-
飼育馬の用途	乗用	353	62.3	48.4	39.7	28.0	22.9	15.9	5.4	3.1	0.6	0.8
	愛玩・展示用	305	61.6	29.2	25.2	17.4	13.4	15.1	3.6	10.5	4.6	1.6
	草競馬用	20	45.0	50.0	40.0	20.0	10.0	25.0	15.0	15.0	10.0	-
	福祉用	43	55.8	39.5	25.6	16.3	16.3	11.6	4.7	7.0	7.0	4.7
	農用	22	59.1	59.1	40.9	4.5	36.4	22.7	13.6	4.5	13.6	-
	肥育用	27	48.1	14.8	40.7	3.7	25.9	14.8	7.4	7.4	7.4	-
	繁殖用	75	58.7	46.7	37.3	14.7	24.0	9.3	16.0	2.7	1.3	-
	伝統行事	26	50.0	30.8	26.9	11.5	15.4	7.7	-	3.8	-	3.8
	その他	45	60.0	35.6	22.2	6.7	11.1	8.9	6.7	8.9	2.2	2.2

衛生管理区域の設定方法

- 衛生管理区域の設定方法は「建物で区別している」が63.1%で最多。「飼養倉庫は衛生管理区域に含めている」41.9%、「不用意に立ち入らないよう立て看板等を設置」が38.3%が続く。
- 種類別・用途別でみると「飼養倉庫は衛生管理区域に含めている」で『軽種馬』『中間種』『乗用』が高く全体を10pt以上上回る。

※ n=全体 (単位: %)

Q3-2-1. 衛生管理区域の設定について、どのように区別していますか。該当する番号に○印を付けてください。(複数回答可)



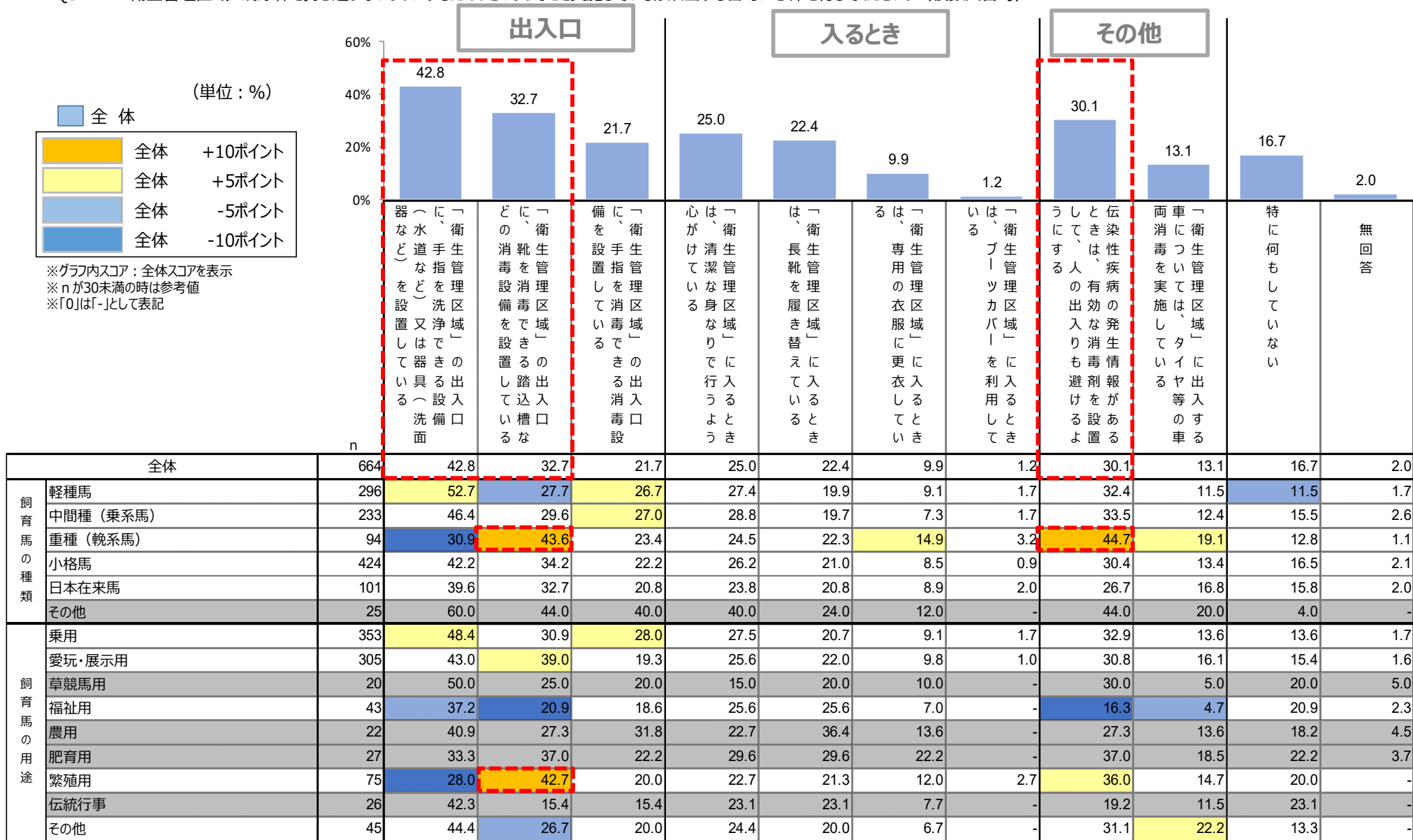
		n	63.1	27.6	10.5	10.5	14.2	8.6	41.9	4.8	38.3	2.0
全体		664	63.1	27.6	10.5	10.5	14.2	8.6	41.9	4.8	38.3	2.0
飼育馬の種類	軽種馬	296	68.2	24.0	12.5	7.8	13.5	6.4	54.7	2.7	43.6	1.0
	中間種(乗系馬)	233	63.9	24.0	13.3	7.7	11.6	6.9	53.2	3.4	45.5	2.1
	重種(鞍系馬)	94	70.2	20.2	11.7	18.1	16.0	10.6	34.0	4.3	42.6	1.1
	小格馬	424	58.7	30.2	9.9	9.7	15.3	8.5	42.2	5.4	38.7	1.9
	日本在来馬	101	63.4	25.7	16.8	12.9	13.9	8.9	42.6	4.0	41.6	2.0
	その他	25	52.0	44.0	32.0	12.0	16.0	8.0	72.0	4.0	52.0	-
飼育馬の用途	乗用	353	65.2	25.2	13.6	8.8	15.0	5.9	52.7	3.4	44.5	1.1
	愛玩・展示用	305	59.0	30.8	10.2	10.5	16.1	7.9	38.7	5.9	36.1	2.0
	草競馬用	20	65.0	30.0	10.0	5.0	25.0	25.0	20.0	-	30.0	5.0
	福祉用	43	48.8	39.5	7.0	7.0	16.3	7.0	48.8	-	46.5	2.3
	農用	22	59.1	27.3	27.3	13.6	18.2	13.6	36.4	4.5	40.9	4.5
	肥育用	27	74.1	22.2	7.4	11.1	18.5	3.7	51.9	3.7	25.9	-
	繁殖用	75	65.3	21.3	9.3	20.0	10.7	13.3	32.0	8.0	34.7	1.3
	伝統行事	26	65.4	3.8	7.7	15.4	23.1	3.8	26.9	7.7	46.2	-
	その他	45	57.8	22.2	8.9	17.8	15.6	8.9	51.1	4.4	35.6	-

衛生管理区域に病原体を持ち込まないための実施策

- 衛生管理区域に病原体を持ち込まないための実施策は「手指を洗浄できる設備又は器具を設置」が最も多く42.8%、「靴を消毒できる踏込槽などの消毒設備を設置」32.7%、「伝染性疾患の発生情報があるときは有効な消毒剤を設置して人の出入りも避ける」が30.1%が続く。
- 種類別・用途別でみると「靴を消毒できる踏込槽などの消毒設備を設置」で『重種』『繁殖用』、「伝染性疾患の発生情報があるときは有効な消毒剤を設置して人の出入りも避ける」で『重種』が高く全体を10pt以上上回る。

※ n=全体 (単位: %)

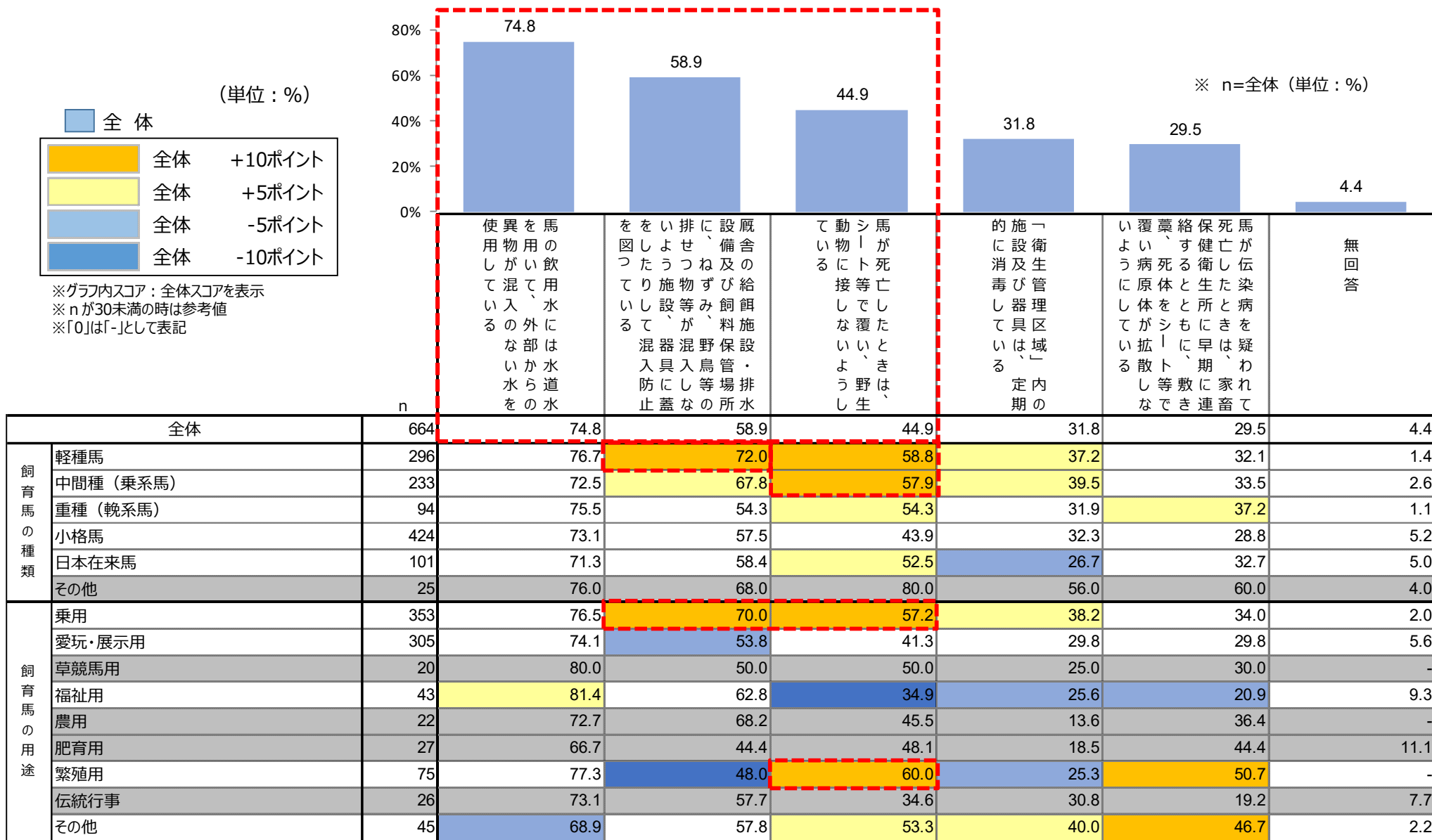
Q3-2-2. 衛生管理区域に病原体を持ち込まないようにするため、どのようなこと実施しているか該当する番号に○印を付けてください。(複数回答可)



野生動物による病原体侵入防止実施対策

- ▶ 野生動物による病原体侵入防止実施対策としては、「外部からの異物が混入のない水を使用」が74.8%で最多。次いで「器具に蓋をしたりして混入防止を図っている」58.9%、「馬が死亡したときはシート等で覆う」44.9%が続く。
- ▶ 種類別・用途別でみると「器具に蓋をしたりして混入防止を図っている」で『軽種馬』『乗用』、「馬が死亡したときはシート等で覆う」で『軽種馬』『中間種』『乗用』『繁殖用』が高く全体を10pt以上上回る。

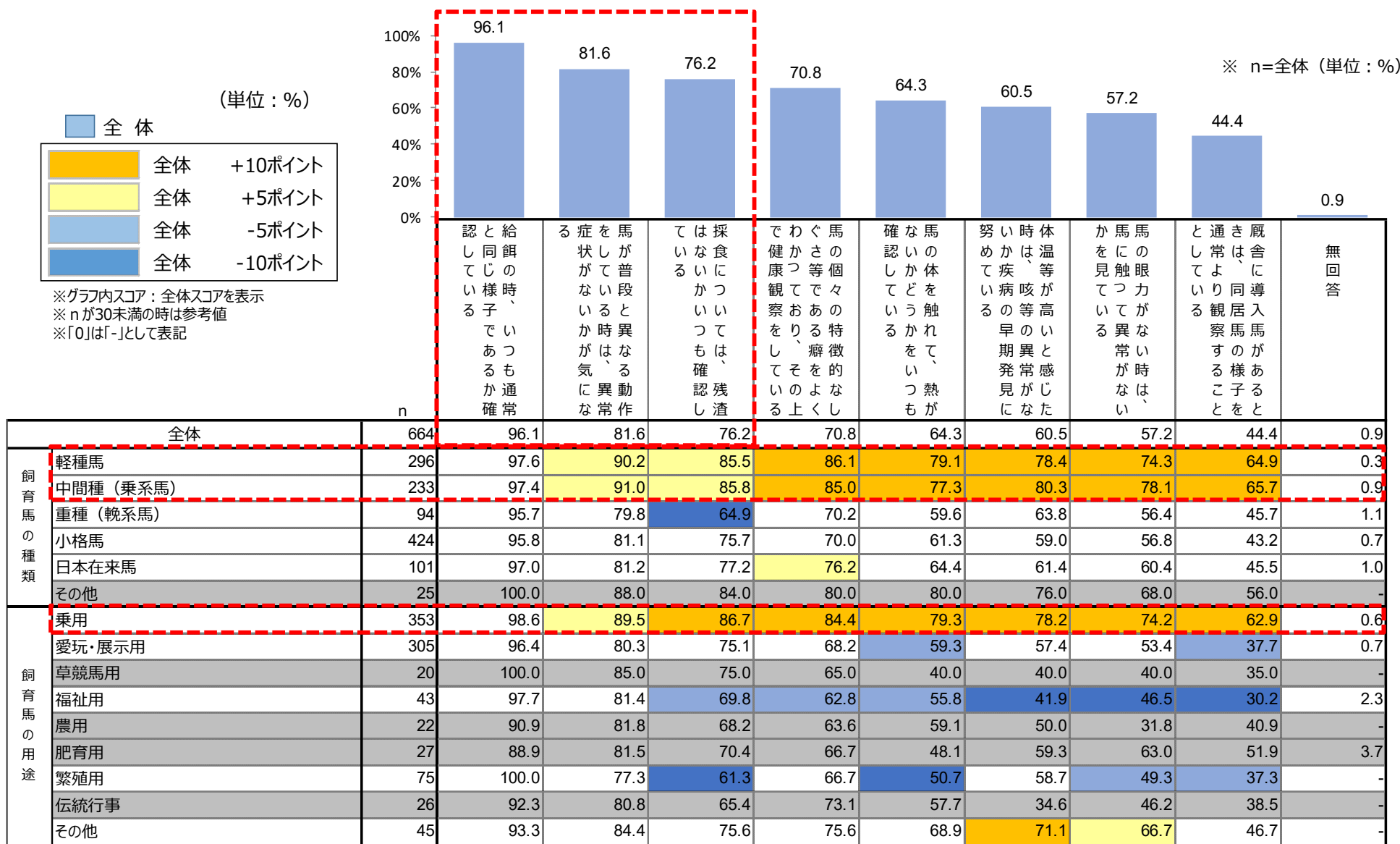
Q3-2-3. 野生動物による「衛生管理区域」への病原体の侵入防止対策として、どのようなこと実施しているか該当する番号に○印を付してください。（複数回答可）



馬の異常の把握方法

- 馬の異常の把握方法は「給餌の時」が最も多く96.1%。次いで「馬が普段と異なる動作をしている時」81.6%、「採食時の残渣」76.2%が続く。
- 種類別・用途別でみると、『軽種馬』『中間種』『乗用』で高い項目が多くみられる。

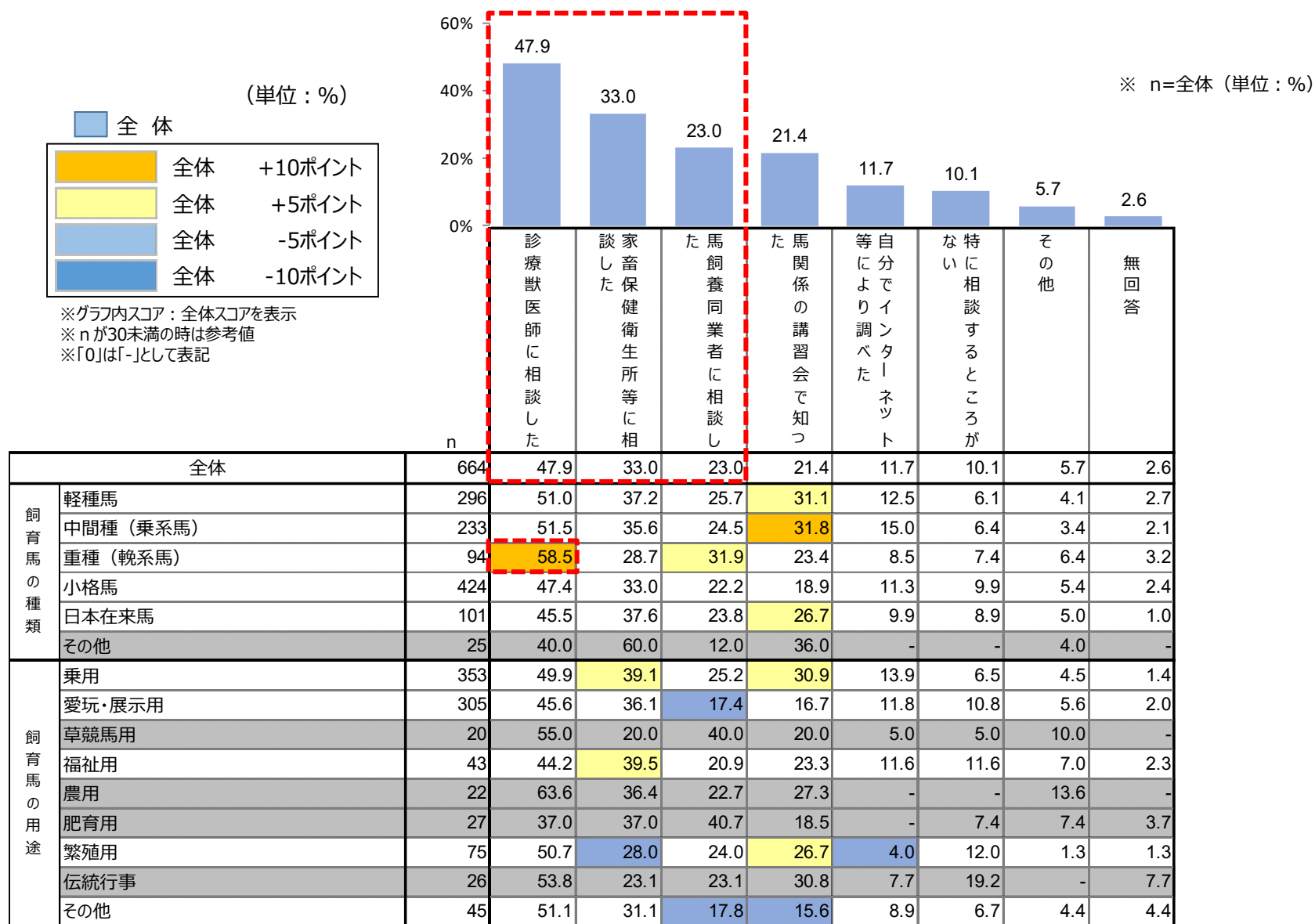
Q3-2-4. 「衛生管理区域」への病原体の侵入防止として、家畜の健康観察が大切ですが、どのように馬の異常を把握されているか該当する番号に○印を付してください。（複数回答可）



衛生対策の相談者

- 衛生対策の相談者としては「診療獣医師」が47.9%で群を抜いて高く、次いで「家畜保健衛生所等」が33.0%、「馬飼養同業者」が23.0%が続く。
- 種類別でみると、「診療獣医師」について『重種』が高く、全体を10pt以上上回る。

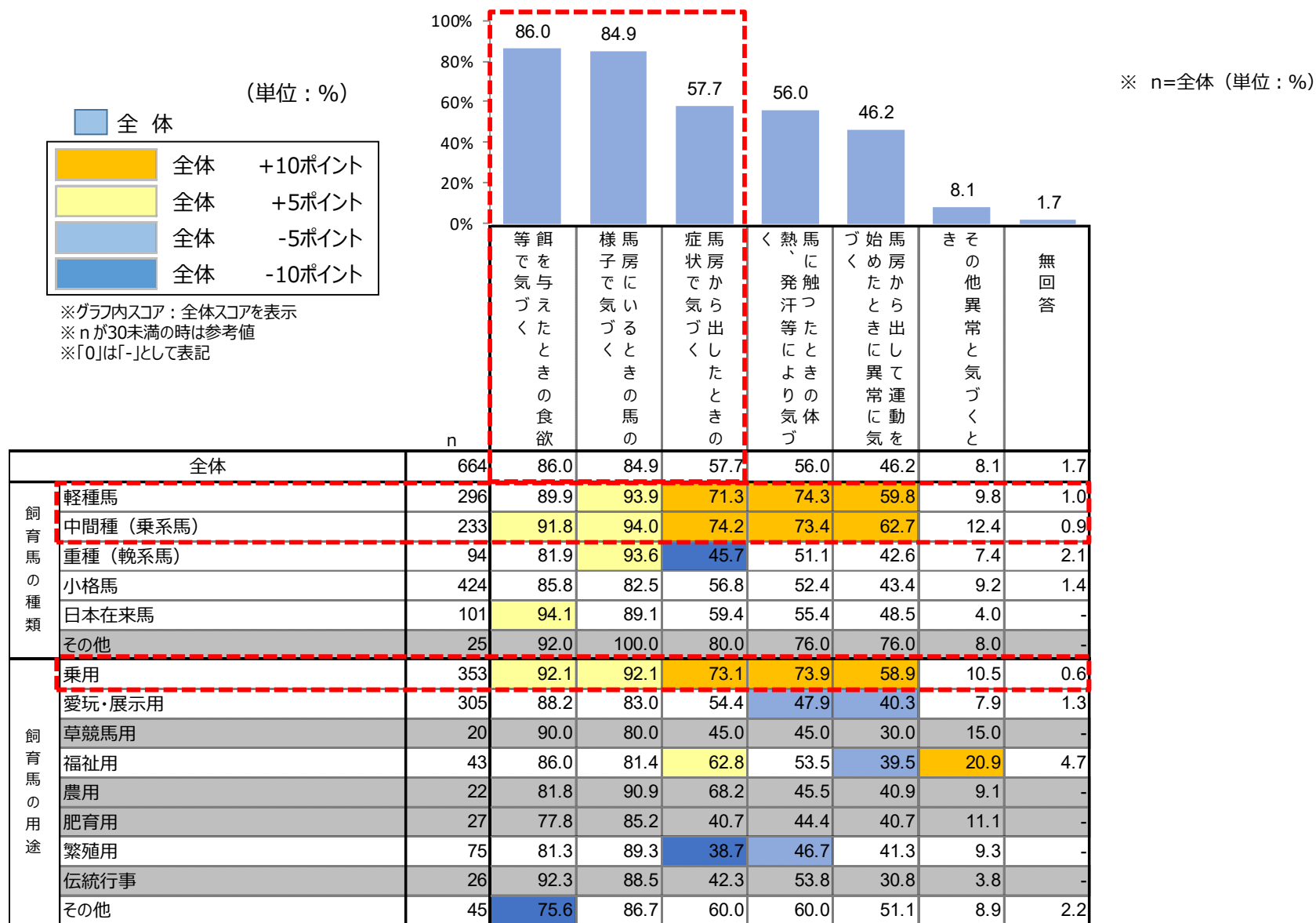
Q3-3. 衛生管理区域等の衛生対策について、どなたに相談しましたか。(複数回答可)



飼育馬の状態異常に気づくとき

- 飼育馬の状態異常に気づくときは「餌を与えたとき」86.0%、「馬房にいるとき」84.9%が特に高く、「馬房から出したとき」57.7%が続く。
- 種類別・用途別でみると、『軽種馬』『中間種』『乗用』で高い項目が多くみられる。

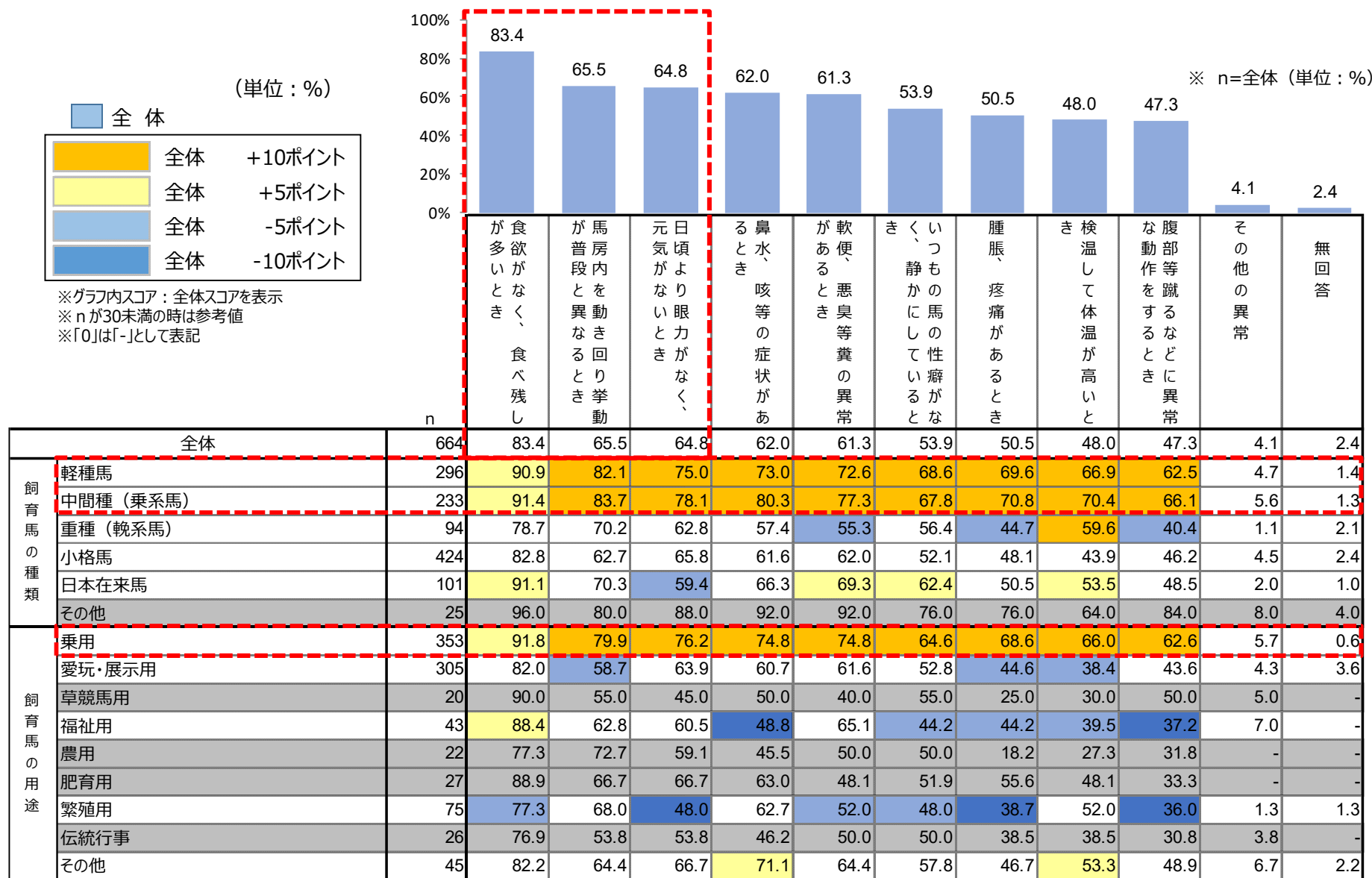
Q4-1-1. 飼育馬の様子がいつもと違うと気づくときに○印を付してください。(複数回答可)



異常症状、疾病罹患に気づくとき

- ▶ 異常症状、疾病罹患に気づくときは「食欲がなく、食べ残しが多いとき」が最多で83.4%、「馬房内を動き回り挙動が普段と異なるとき」65.5%、「日頃より眼力がなく、元気がないとき」64.8%が続く。
- ▶ 種類別・用途別でみると、『軽種馬』『中間種』『乗用』で高い項目が多くみられる。

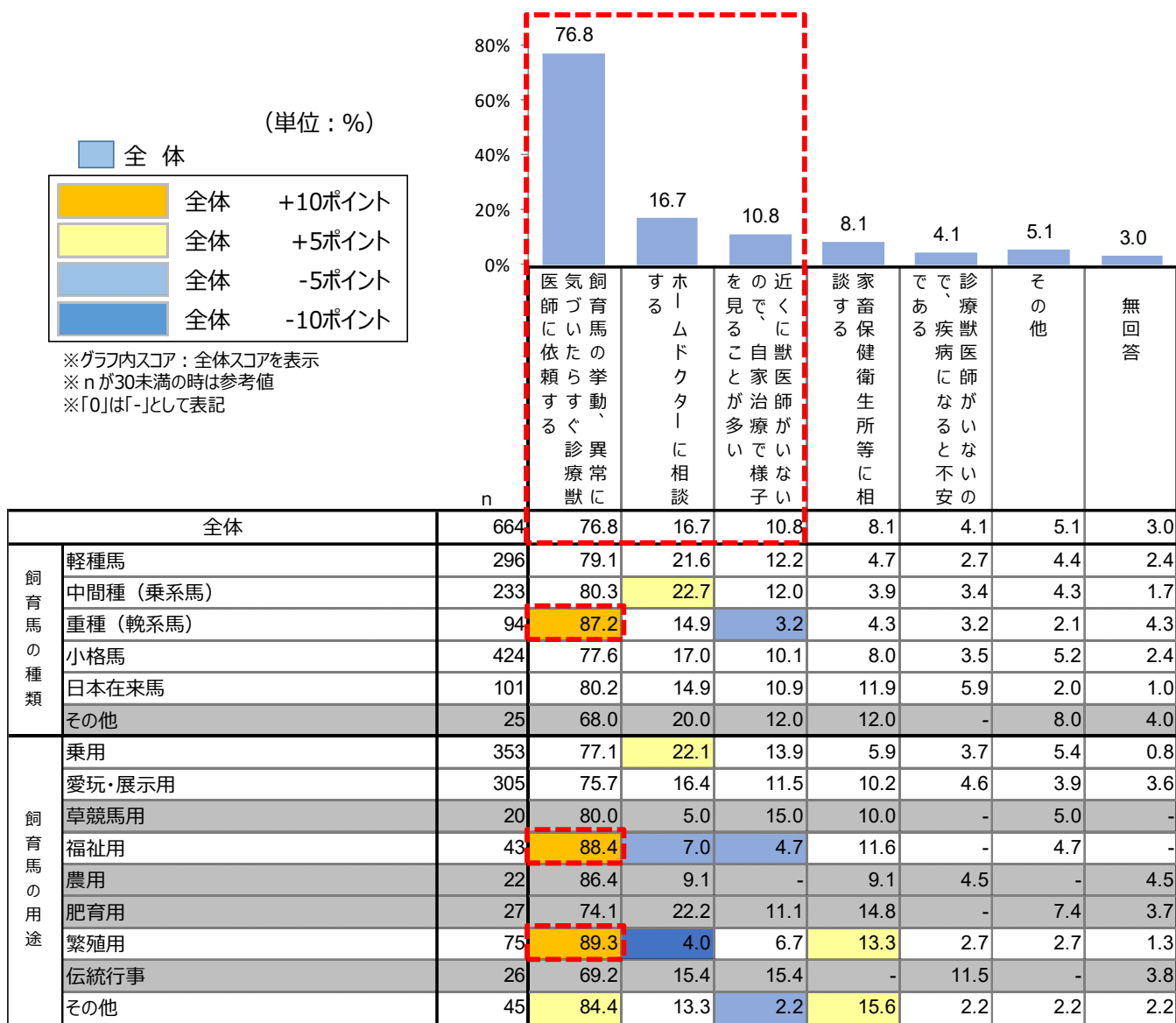
Q4-1-2. 異常症状、疾病の罹患に気づくときの番号に○印を付してください。(複数回答可)



飼育馬の疾病罹患時の対処法

- 飼育馬の疾病罹患時の対処法は「気づいたらすぐ診療獣医師に依頼する」が76.8%で、他対処法より群を抜いて高い。
- 種類別・用途別でみると「気づいたらすぐ診療獣医師に依頼する」は『重種』『福祉用』『繁殖用』が高く全体を10pt以上上回る。

Q4-1-3. 飼育馬が疾病に罹患した時についてお伺いします。(複数回答可)

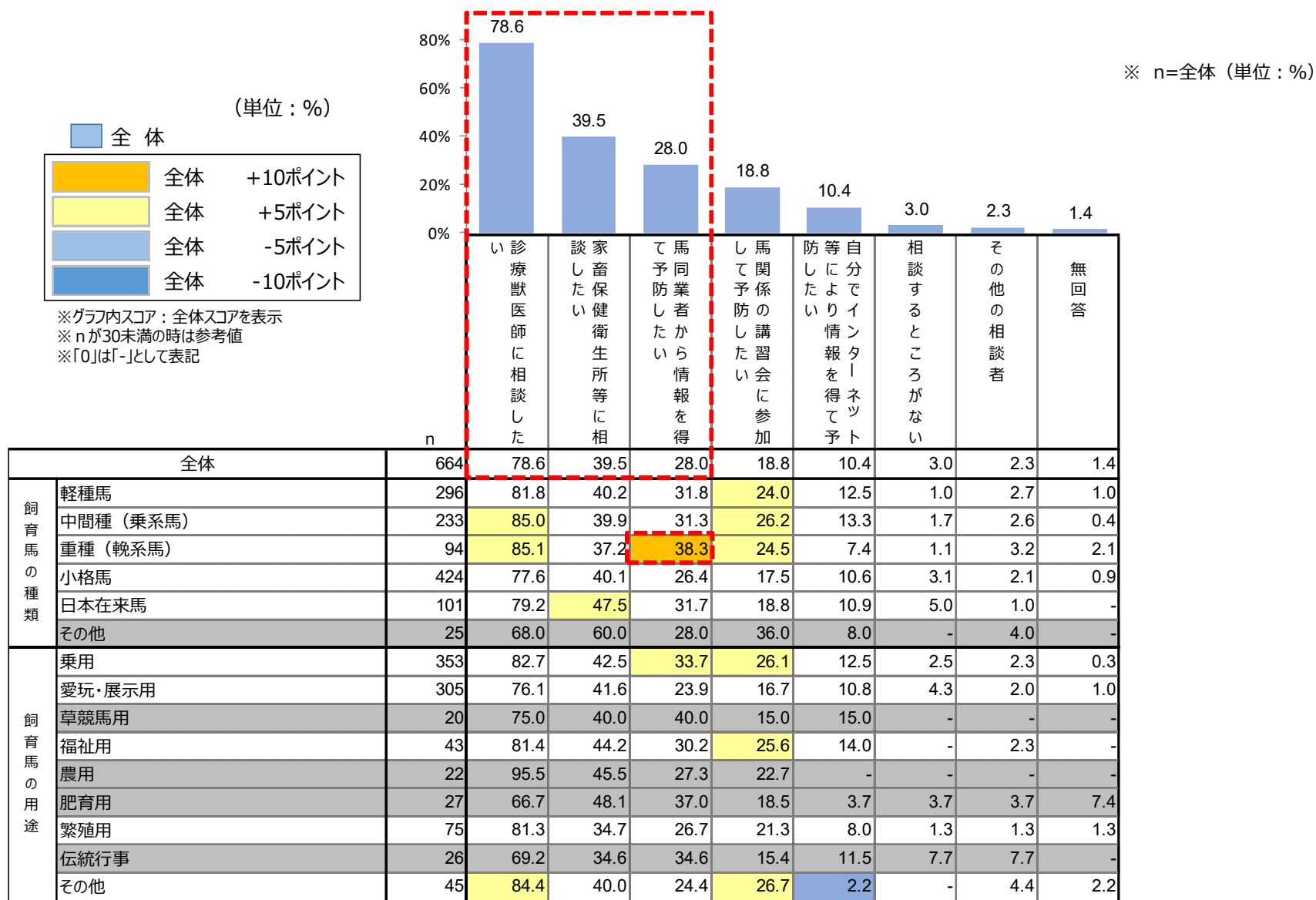


※ n=全体(単位：%)

馬の疾病等予防対策の相談者

- 馬の疾病等予防対策の相談者は「診療獣医師」が78.6%で最も高く、「家畜保健衛生所等」39.5%、「馬同業者」28.0%が続く。
- 種類別・用途別でみると「馬同業者」は『重種』が高く全体を10pt以上上回る。

Q4-2. 馬の疾病等予防対策について、今後どなたに相談したいですか。（複数回答可）

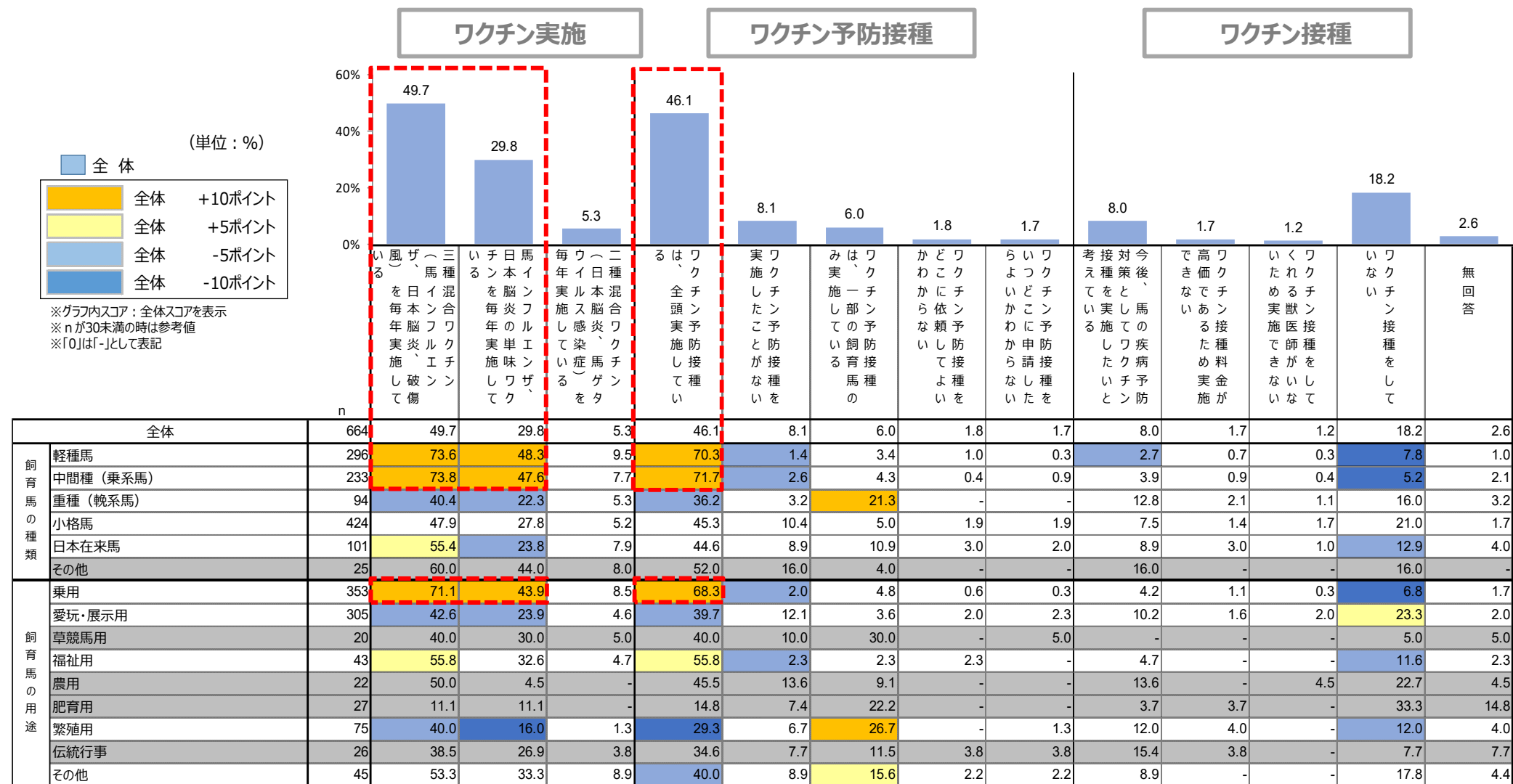


馬の疾病予防実施対策

- 馬の疾病予防実施対策は、「三種混合ワクチンを毎年実施している」49.7%が最も高く、「ワクチン予防接種は、全頭実施している」46.1%、「馬インフルエンザ、日本脳炎の単味ワクチンを毎年実施している」29.8%が続く。
- 種類別・用途別でみると上位3つとも『軽種馬』『中間種』『乗用』が高く、全体を10pt以上上回る。

※ n=全体 (単位: %)

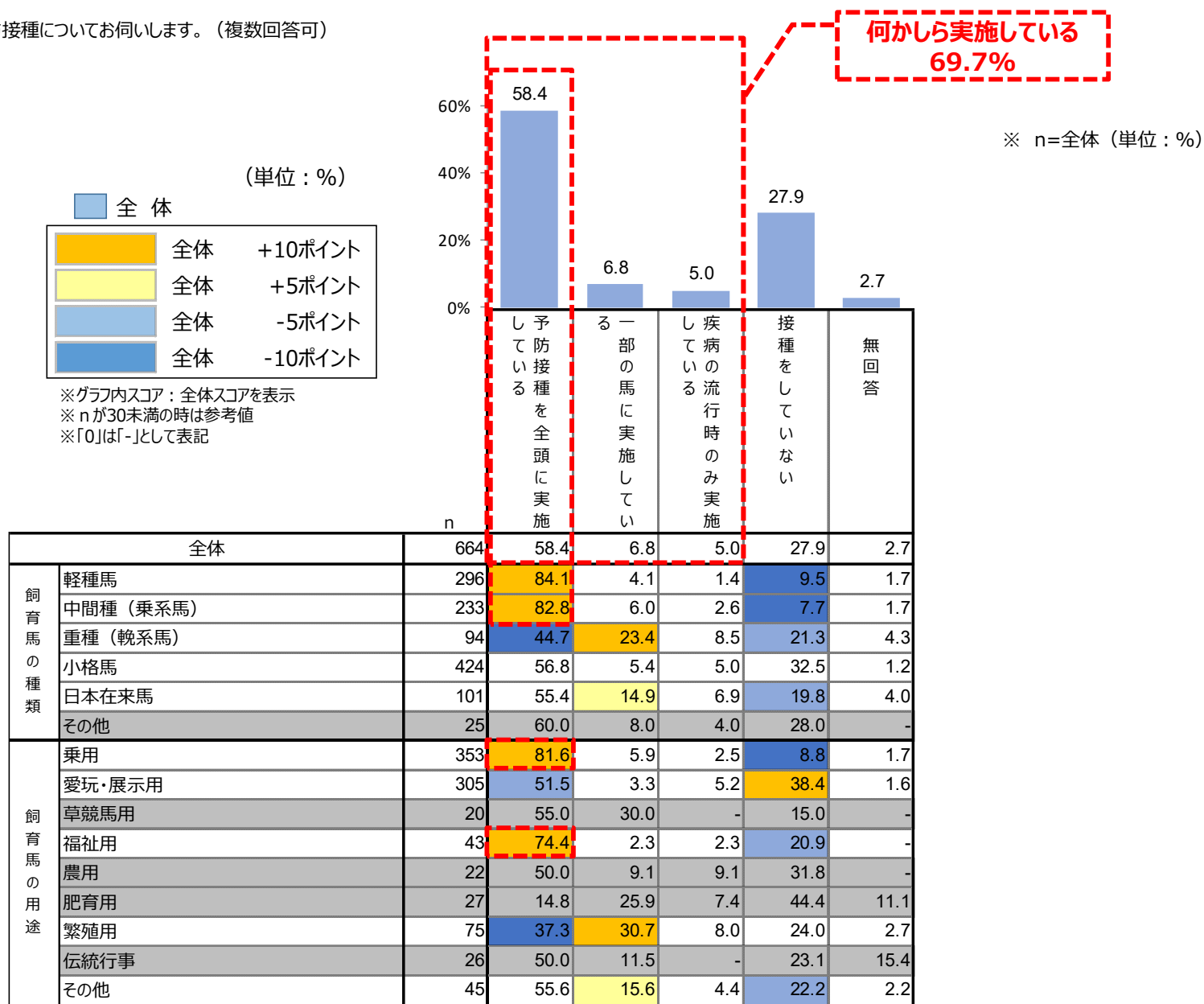
Q4-3-1. 馬の飼養衛生管理で大切なことは、普段から良質な餌を与え強い体力を作ることに加え、馬インフルエンザ等予防接種をして疾病予防対策するよう心掛けることが大切ですが、該当する番号に○印を付してください。(複数回答可)



馬インフルエンザワクチン予防接種について

- 馬インフルエンザワクチン予防接種は、約7割が何かしらを実施しており、なかでも「予防接種を全頭を実施している」が58.4%で最も高い。
- 種類別・用途別でみると、「予防接種を全頭を実施している」は『軽種馬』『中間種』『乗用』『福祉用』が高く全体を10pt以上上回る。

Q4-3-2. 馬インフルエンザワクチン予防接種についてお伺いします。(複数回答可)

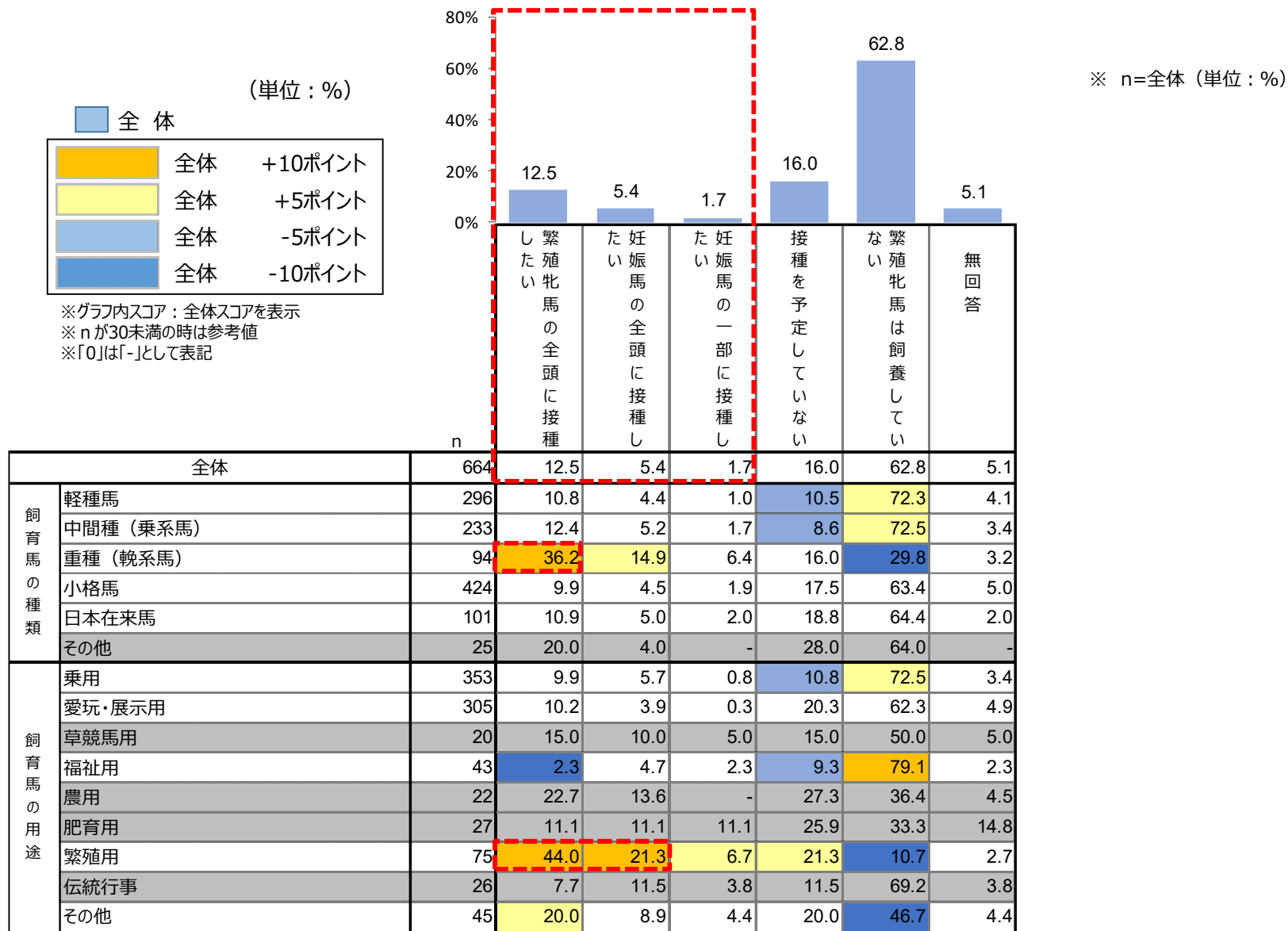


馬鼻肺炎ワクチン接種（流産予防）の検討度

- 馬鼻肺炎ワクチン接種（流産予防）の検討度は、「繁殖牝馬の全頭に接種したい」12.5%、「妊娠馬の全頭に接種したい」が5.4%、「妊娠馬の一部に接種したい」1.7%。
- 種類別・用途別でみると、「繁殖牝馬の全頭に接種したい」は『重種』『繁殖用』、「妊娠馬の全頭に接種したい」は『繁殖用』が高く全体を10pt以上上回る。

Q4-3-3. 馬鼻肺炎ワクチン接種（流産予防）についてお伺いします。

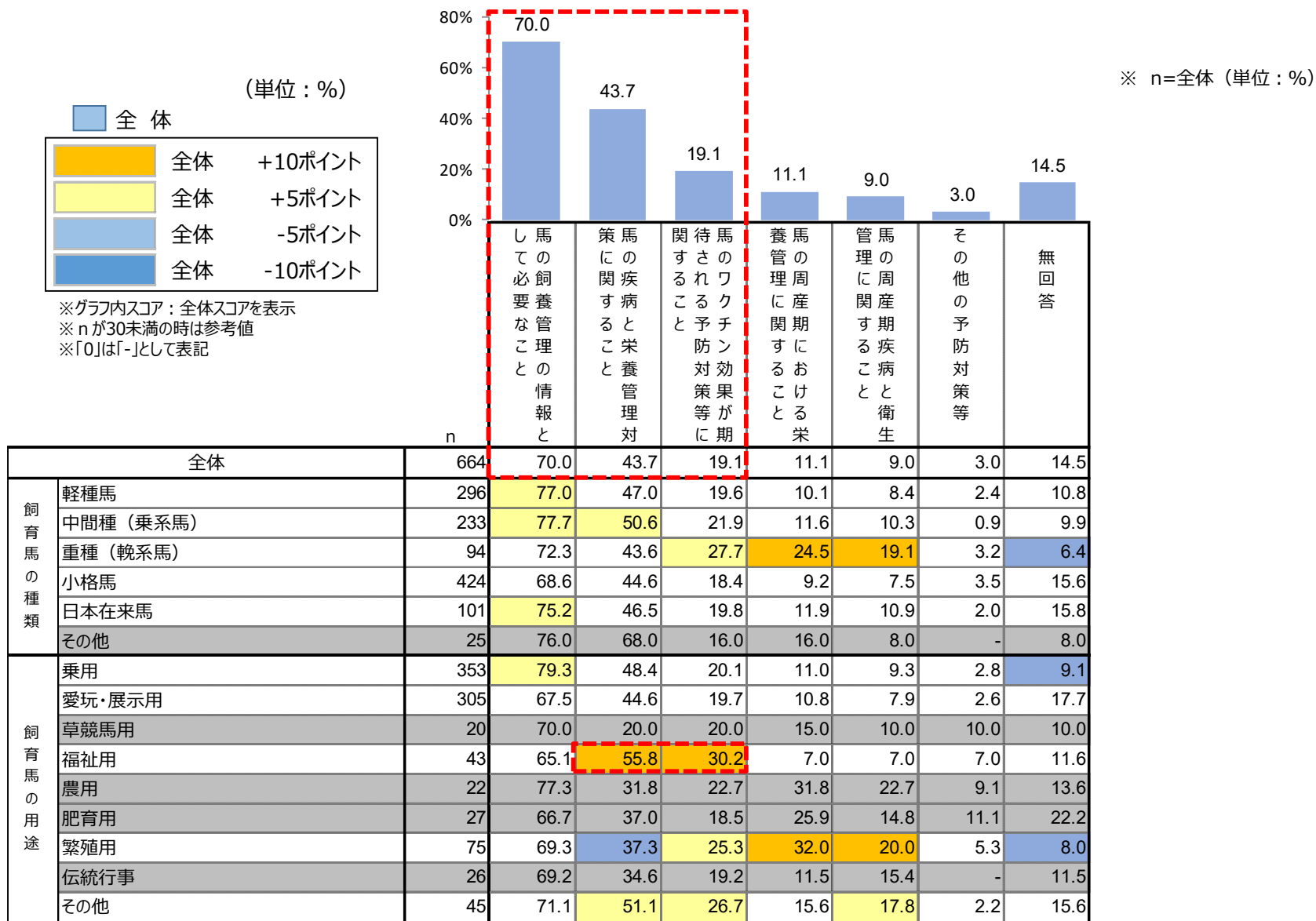
馬鼻肺炎ワクチン接種は、本年度からすべての繁殖牝馬を対象に助成されることになりましたが、本予防接種についてどのように検討されておられますか。（複数回答可）



講習会等で希望する予防管理情報

- ▶ 講習会等で希望する予防管理情報は「馬の飼養管理の情報」が70.0%が群を抜いて高く、次いで「馬の疾病と栄養管理対策」43.7%、「馬のワクチン効果が期待される予防対策等」19.1%が続く。
- ▶ 種類別・用途別でみると、「馬の疾病と栄養管理対策」「馬のワクチン効果が期待される予防対策等」はともに『福祉用』が高く、全体を10pt以上上回る。

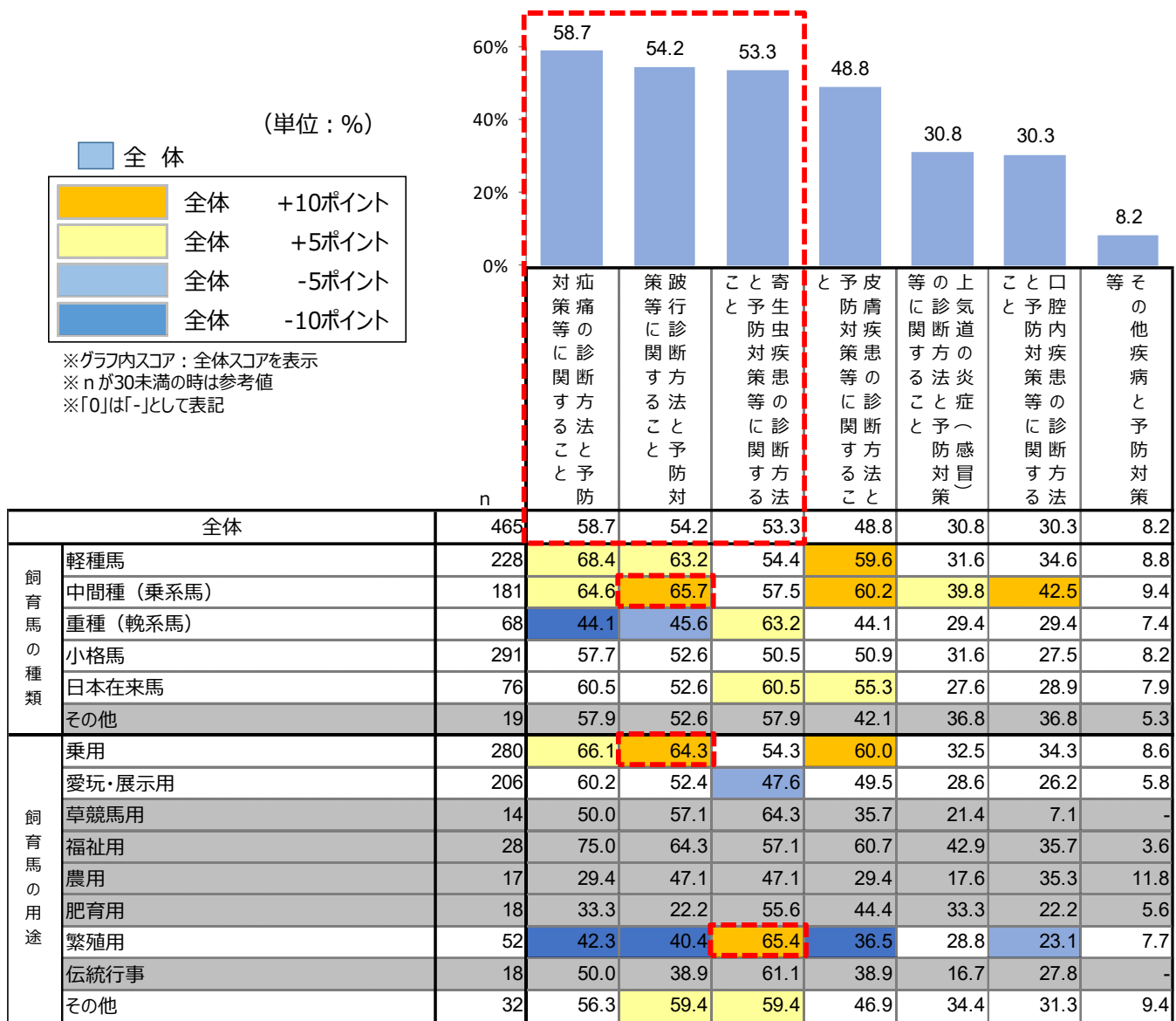
Q4-4. 今後の予防管理として、馬の飼養衛生管理に関する講習会等で希望することについてお伺いします。（複数回答可）



馬の飼養管理に必要な診断方法と予防対策等

- 馬の飼養管理に必要な診断方法と予防対策等は「疝痛の診断」が最も多く58.7%、次いで「跛行の診断」54.2%、「寄生虫疾患の診断」53.3%が続く。
- 種類別・用途別でみると、「跛行の診断」は『中間種』『乗用』、「寄生虫疾患の診断」は『繁殖用』が高く、全体を10pt以上上回る。

Q4-4SQ. 馬の飼養管理の情報として必要な内容に○印を記入してください。(複数回答可)



※ n=馬の飼養管理の情報希望者ベース (単位: %)